

2016 年度秋学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	現代こども学科	科 目
-----------	---------	-----

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

今学期の授業アンケート結果において、Q6を除くQ1からQ9までのすべての項目について、全学平均を上回った。Q6は授業レベルが「自分に合っていた」と答えた学生が7割を超えており、教員の授業の工夫の結果が表れている。

さらに、Q10のDWCLA10については、本学科はすべての項目において全学平均を上回っていた。昨年度秋学期において、本学科はすべての項目について、全学平均を上回ることができたが、今学期もその状態を維持することができた。

個々の項目についてみると、Q1「授業内容を理解できましたか。」の本学科の平均は4.38（全学平均は4.20）、Q2「授業に意欲的に取り組みましたか。」の本学科の平均は4.35（全学平均は4.20）、Q3「授業を通じて知的好奇心が刺激されましたか。」の本学科の平均は4.31（全学平均は4.13）、Q4「予復習や自主学習に1週間あたりどれくらい時間をかけましたか。」の本学科の平均は0.8時間（全学平均は0.65）、Q5「授業方法は工夫されていきましたか。」の本学科の平均は4.24（全学平均は4.09）、Q7「教員の話は聞き取りやすかったですか。」の本学科の平均は4.31（全学科平均は4.22）、Q8「授業内容はシラバスに合っていましたか。」の本学科の平均は4.38（全学平均は4.33）、Q9「授業は集中して学べる雰囲気でしたか。」の本学科の平均は4.42（全学平均は4.34）であった。科目には、こども学の科目をはじめ、小学校教員免許や幼稚園教員免許に関する科目、保育士養成課程の科目が比較的に多く含まれている。これらの科目では、グループによる授業づくりと模擬授業実践、保育に関する模擬実践など、グループでの相談、作業、活動が設定されており、アクティブで主体的な学習場面が比較的多い。このアクティブな学習が、学生の意欲の喚起、知的好奇心の向上に結びついていると思われる。

Q10のDWCLA10については、「思考力」が62.2（%）と最も高く、次が「分析力」の36.8（%）、その次が「創造力」の34.7（%）であった。「思考力」については、本学科は、看護学科の67.4（%）、日本語日本文学科の62.5（%）に次いで高かった。その他、「分析力」、「創造力」、「プレゼンテーション力」、「コミュニケーション力」についても、全学の中で上位に位置しており、深い思考をもち、他者とかかわりながら発信できる力をバランスよく身に付けたと学生たちが実感していると推測される。現代こども学科は、「こども」を扱う大人の育成という側面が強いことから、大学の授業の中で、個人またはグループが発表する場面や他人に説明する場面が多く取り入れられている。それらの個々の授業の成果が数値として表れていると察する。これらの点については、今後も維持していけるように留意したい。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育開発支援センター